



写真中央：両宮山古墳
(赤磐市穂崎・和田)

びぜんこくぶんじあと
一備前国分寺跡

りょうぐうざんこぶん
一両宮山古墳

しせき 史跡だより 第4号

岡山県赤磐市教育委員会 平成25年4月1日発行

そせき 地中から礎石を発見 ～備前国分寺跡第8次調査～



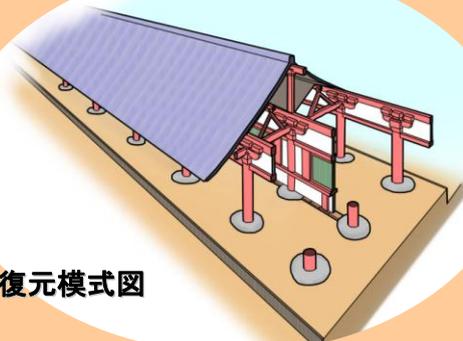
▲ 南北方向に3個並ぶ回廊の礎石
(南から)

平成25年1月中旬から2ヶ月間、金堂を取り囲む「回廊（屋根付きの廊下）」と僧侶が生活した「僧房」の一部を調査しました。

回廊では地表面を50cmほど掘り下げると、建築当時の礎石（柱をのせた石）が3個見つかりました。礎石の大きさは長さ約70cmで上面は平らです。礎石は約3.6m間隔で規則正しく並んでおり、建物の規模を推定する手がかりになります。

また、僧房西端の調査では、正面3間（8.91m）、奥行2間（5.41m）が一部屋の大きさであったことが判明しました。約52㎡（約32畳分）です。僧侶の生活や修行の様子が目に浮かぶようです。

ほかにも、僧房を建替えたときの礎石や建物が壊れたときに落ちた瓦が大量に見つかりました。



回廊の復元模式図

〒709-0816 岡山県赤磐市下市 337 番地 TEL086-955-0710

URL: <http://bunkazai.akaiwa-rekishi.jp/>

こうどう きだん 講堂の基壇を復元中

国分寺跡は、塔に引き続き講堂の基壇(土台)を復元中です。講堂は、僧侶らが講義を聴いて議論する場で、東西約 33m、南北約 16mの巨大な建物でした。

まだ、その土台の半分程度しかできていませんが、順次完成を目指していきます。今後は、礎石を配置し、階段などを設置していきます。



両宮山古墳の 斜面復旧工事了

7月の大雨によって古墳内の通路脇斜面が大きく崩落しました。そこで、1月から斜面の復旧工事を行い、3月に完了しました。これにより、古墳の前方部(両宮神社)まで安全に通行することができます。近隣の方々にはご協力いただきありがとうございました。一度、古墳に訪れてみてください。



国分寺跡のレーダー探査



発掘調査と並行して、奈良文化財研究所の協力を受け、地面を掘らずに地中をレーダーで探査しました。地中に向けて電磁波を放射し、反射した電磁波を測定することで、礎石などの存在が明らかになりました。



史跡備前国分寺跡・両宮山古墳周辺図